学校だより
庭の桜の はなもみじ
春秋ごとに旬うなり
平成23年12月20日
千曲市立屋代小学校
No.41

交通安全パトロールに協力

～ １９日（月）１・２年生５名が参加 ～

年末交通安全運動の啓発活動として、千曲警察署・千曲交通安全協会の方々とともに、「信州ブレイブウォリアーズ」（プロバスケットボールチーム）の選手の皆さんと小学生（屋代小と埴生小１・２年生９名）が、屋代駅周辺の交通安全パトロールを行いました。

駅前での出発式の後、婦警さんに実際に駅前の横断歩道やスクランブル交差点の渡り方を教えていただきました。そして、いよいよメイン・イベント。道路のカーブミラーを点検し、ミラーを磨きました。磨くのは小学生。バスケットボール選手に高々と持ち上げてもらい、高いミラーをきれいにすることができました。小さな力が、交通事故をなくす力となってくれることを願っています。

千曲署管内では、このところ交通死亡事故が続いています。小学生も、十分に気をつけてほしいとのお話がありました。二学期も、あとわずか。よい年越しができるよう、交通事故には十分気をつけてください。

● 歩行の注意 ● 横断歩道、交差点では、青信号でも左右の安全を確認して、横断をする。

歩道では車道から離れて、右隅を歩く。

● 自転車の注意 ● 小学生は、歩道を自転車で乗ってよいが、歩道では歩行者が優先となる。

ヘルメットを着用。

保護者の皆様方へ

早朝、夕暮れ時の事故が増えています。

人や車が見えにくくなるため、スピードはひかえめに、安全運転をお願いします！

最近の学校生活から

16日（金）屋代南高の生徒さんが総合学習の成果を本年度２回目の**理科実験ワークショップ**で児童に伝えてくれました。

個別懇談会にあわせて、**校内図工展**を行い、保護者の方々にご覧いただきました。この子らしさの出た秀作ぞろいでした。

新 キラリ輝くこの子のために 14

「ＰＴＡセミナー」での質問へのお返事　⑧

「できる状況作り」が家庭の中でその割合が高すぎることは、過保護ということにならないのでしょうか？

できる状況作りで大切なことは、子どもが自分の力でできたと思わせることです。大村はま先生は、著書「教えるということ」の中で、次のように述べられています。　　＊「できる状況作り」は、はなもみじ№７に掲載。

仏様がある時、道ばたに立っていらっしゃると、一人の男が荷物をいっぱい積んだ車を引いて通りかかった。そこにはたいへんなぬかるみがあった。車は、そのぬかるみにはまってしまって、男は懸命に引くけれども、車は動こうともしない。男は汗びっしょりになって苦しんでいる。いつまでたっても、どうしても車は抜けない。その時、仏様は、しばらく男のようすを見ていらっしゃいましたが、ちょっと指でその車におふれになった。その瞬間、車はすっとぬかるみから抜けて、からからと男は引いていってしまった。

この話は、真に「教えること」とはどういう事かを示していると思います。ここでの仏様の指のような教師こそが本物の教師ではないでしょうか。男は、み仏の指の力にあずかったことを永遠に知りません。自分が努力して、ついに引き得たという自信と喜びとで、その車を引いていったと思っています。

仏様の指のような教え方ができれば、子どもたちは**「自分でやり遂げたと満足」し、「次も精一杯力を出してみよう」と思う**に違いありません。

「できる状況作り」は、この子の実態に応じて変わってきます。できることまで手を貸してやるものではないのです。また、できないことをすべてやってあげることとも違います。全力を出し切れるように、いつ、どのように指導をすればよいか、それを考えるのが教師の仕事です。そして、その指導は、決して一方的に教え込むのでなく、自ら気がつけるように、教材を用意し、友達とともに追究を深めていく中でできるようにする支援です。

特別支援学校における「できる状況作り」での配慮点　　○興味・関心のもてる工夫
○達成までの見通し（手順）を明らかに　○主体的に取り組める補助具の開発　　等

ご家庭では、**初めてのことは一緒に**やってみること。そして、**次第に手を貸す部分を少なく**していくことがよいと思います。

できたときは、十分に褒めてあげ、成長を喜んでください。